



〈目次〉

病院長インタビュー

【診療科・部門紹介】

- ▶▶ 血液・膠原病内科
- ▶▶ 耳鼻咽喉科・頭頸部外科
- ▶▶ 整形外科・リウマチ外科
- ▶▶ 脳神経外科
- ▶▶ 口腔保健科

●病院再開発 新中央診療棟での抱負

●イルミネーション点灯式とクリスマスコンサート

●錦江湾魚ごよみ

桜島と朝日(鹿児島市)

理念

鹿児島大学病院は、21世紀に輝くヒューマン・トータルケア病院の構築を目指し、医療人の育成及び医学・歯学の研究の充実と発展に貢献すると共に、常に患者さん本位の原点に立った、質の高い医療を提供します。

基本方針

1. 患者さんの権利を尊重し、安心して安全な納得のいく治療を心がけます。
2. 質の高い医療、先進的医療の充実を図り、地域の中核的医療機関として貢献します。
3. 教育・研修病院として、地域の医療機関との連携を図り、人間性豊かな使命感にあふれる医療人を育成します。
4. 診療を通じてわが国の医学・歯学の研究を推進し、医学・歯学及び医療の国際貢献を目指します。
5. 安全で効率の高い病院運営体制を確立します。

患者さんの権利と責務

〈患者さんの権利〉

1. 誰でも良質な医療を公平に受ける権利があります。
2. 人の尊厳は、医療行為のあらゆる場面において尊重されます。
3. 医学的な状態、診断、処置その他の個人情報保護されます。
4. 治療・検査の方法、薬の内容等について十分な情報と説明を受け、理解した後、同意・拒否を選択する権利があります。
5. 診療録等に記録された自己の診療内容について、本院の規則により、情報の提供を受ける権利があります。

〈患者さんの責務〉

1. 医療従事者が最善かつ適切な診療を行うために、自身の健康状態に関する情報をできるだけ正確に伝える責務があります。
2. すべての患者さんが適切な医療を受けられるようにするために、院内の医療の妨げとならないように協力する責務があります。

地域の方々に信頼される 鹿児島大学病院を目指して

高松英夫 鹿児島大学病院長

—— 昨年は立体駐車場ができ、平成19年度からは「病院再開発」が始まりました。患者さんにとって心地よい病院づくりが着々と進んでいるのではないのでしょうか。

病院長 患者さんにとって一番わかりやすいのは立体駐車場の設置だと思います。以前、自分で歩いてみたのですが、もっとも遠い駐車場からは上り坂を550歩くらい歩かなければならず大変でした。今は病院までのアプローチが大変しやすくなったのではないかと思います。

「病院再開発」は平成28年度までのおよそ10年間で鹿児島大学病院の内科と歯科の建物を新築・改築して統合する大規模な工事です。病室の拡張や各部屋へのトイレ・洗面台の設置、バリアフリーなどが実現し、患者さんにとってさらに療養しやすい環境が整います。病院職員にとっても働きやすい病院ができる予定です。これからあちこちで工事が始まりますから、完成するまでは回り道をしていただくなど、ご不便をおかけすることも出てくるでしょうが、快適な病院づくりのため、患者さんにはご協力をお願いします。今後もこの『桜ヶ丘だより』などを通じて、病院再開発の進行状況についてはお知らせしていく予定です。

—— 医師の数が足りないということがマスコミ等で報道されていますが、鹿児島大学病院の現状を教えてください。

病院長 実は鹿児島大学病院の医師の数は以前と比べて大きく減ってはいませんが、地域の病院に医師を派遣する余裕がなくなってきているのが現状です。そんな中で、医師・看護師の仕事量はどんどん増えています。

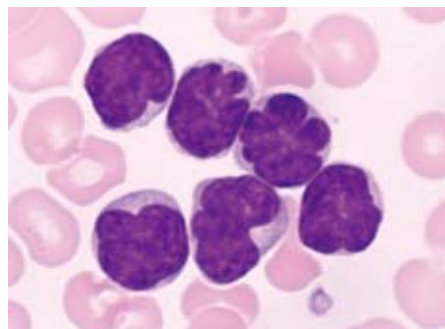
最近では医師や看護師の過重労働を減らし、本来の診療・看護業務に専念してもらうため、新しい職種の配置を始めています。たとえば、「病棟クラーク」は紙媒体のカルテのデータ化や診断書作成の補助、診療報酬のチェックなどを行うこととなります。また、医療機器の専門家である「臨床工学技士」は、これまで医師や看護師がやっていた医療機器の管理・メンテナンスを行います。専門家が担当することで医師や看護師の負担が軽減され、患者さんにも安全な医療を提供できるという利点があります。こうした分業化をさらに進め、将来は患者さんの待ち時間を短くできるところまでもっていきたいと考えています。

—— 最後に読者の方々へのメッセージをお願いします。

病院長 今年は待望の「新中央診療棟」が完成します。新中央診療棟には検査部、医療器材管理部(材料系)、集中治療部、手術部が入る予定です。病院再開発が終了するまでにはまだまだ時間がかかりますが、新しい建物が患者さんや病院職員の精神的な支えとなってくれるでしょう。また、高度な医療を提供する「最後の砦」としての役割を持つ大学病院として、救急医療の強化など、病院の体制づくりをさらに進めたいと考えています。遠くて敷居の高い病院でなく、鹿児島大学病院に行けばしっかりした治療を受けられる、この医師に診てもらえると地域の方々に信頼されるような鹿児島大学病院を目指していきます。

成人T細胞白血病／リンパ腫および HTLV-I感染症の診療のご案内 血液・膠原病内科

血液膠原病内科では鹿児島県で10～20人に一人感染している、ヒトTリンパ球向性ウイルスI(HTLV-I)感染症およびその感染している方の中から生涯を通して3%程度の割合で発症する成人T細胞性白血病・リンパ腫(ATL)の診療に特に力を入れています。HTLV-Iは授乳、性交渉、輸血などにより感染しHTLV-Iに感染したリンパ球は増殖しますが、感染していないリンパ球などの免疫系が抑制するという状態でバランスがとれ持続感染が成立しています。このバランスがくずれ、ATLを発症しますが、他にも炎症性疾患、血液疾患になりやすい可能性があります。当科ではHTLV-I感染症の方が来院されましたら、ATLの診断を含めて、健康上の問題点がないかどうかについて診察・検査いたします。さらに臨床研究としてHTLV-I感染細胞の量に関する検査、HTLV-Iに対する免疫がどのような状態であるかなども検査することができます。ATLに対する化学療法、造血幹細胞移植、新規治療などにも積極的に取り組んでいます。該当される方は一度受診されることをお勧めします。



ATL細胞

〈初診受付〉月～金(8:30～11:00) TEL 099-275-5731

TOPICS

病院

再開発

現在の建物は築後30年以上が経過しているため、病院内施設の充実、患者さんの療養環境改善を目的に、平成19年度から10年間で建物の増築・改修を行います。期間中、ご不便をおかけするかもしれませんが、ご協力をお願いします。

新中央診療棟での抱負～手術部・医療器材管理部～

平成21年6月完成予定の新中央診療棟に移転する手術部及び医療器材管理部について、移転後のメリットや期待される効果等をご紹介します。

手術部

手術部は、①機能性と標準性を合わせ持つ16の手術室に改修予定の旧2室を加えた18室を利用して効率的な運用、手術件数増加による迅速な手術加療への対応が期待できます。②クリーンホールやエントランスホールの整備でスタッフと患者さん双方のゾーニング、アメニティが向上します。③医療器材管理部との連携で、手術器材の洗浄・滅菌業務が最新のシステムになります。

医療器材管理部

医療器材管理部は、ガーゼなどの衛生材料や、注射器・絆創膏等の医療消耗品の供給、手術器械等の滅菌業務を行います。①全自動4槽式の医療器械洗浄装置や最新のプラズマ滅菌装置の導入により、効率的な洗浄滅菌が可能になります。②コンピューター管理による「滅菌品質管理システム」が導入され、より確実な品質管理が行えます。これからの安全安心の医療にさらに貢献できる体制が整います。



新中央診療棟現場の進捗状況(平成20年11月7日)

花粉症初期治療の
お勧め

耳鼻咽喉科・頭頸部外科

花粉症に対する初期治療をご存知ですか？ スギ花粉飛散前の花粉症症状が出る前から薬物療法を開始するもので、特に例年、強い花粉症症状を示す方にはお勧めします。花粉飛散期のQOL(生活の質)を改善する報告がなされております。毎年、お困りの方はご検討ください。

耳鼻咽喉科・頭頸部外科においては、月曜日午後アレルギー外来を設けて、通年性鼻アレルギー、花粉症の診断、治療に積極的に取り組んでおります。くしゃみ、鼻水、鼻づまりの鼻アレルギー症状のある方は、診療ガイドラインに従った正確な診断と適切な治療を受けられることをお勧めします。患者さんのライフスタイルやニーズもよくお聞きして、個人個人に合わせた治療を行っています。当科には、鹿児島県に13名しかいないアレルギー学会専門医のうち、4名が勤務しております。初診日は、月、水、金曜日の午前中です。お気軽に御相談ください。

(初診受付)月・水・金(8:30~11:00)

TEL 099-275-5870



スギ花粉



花粉飛散

専門医による質の
高い医療を目指す

整形外科・リウマチ外科

当科は頭部以外の骨・関節・神経の病気に加えリウマチや骨粗鬆症等全身性疾患も扱います。疾患により細分化したグループ別に治療を行いますが、国内外の最先端の施設で研修した専門医をそれぞれに配し、質の高い医療を目指しています。

腫瘍班は西日本有数の手術件数を誇り、病理医・放射線科医との検討会を経て手術と薬物・温熱・放射線療法を組み合わせ個々に最適な治療を提供しています。脊椎脊髄班はヘルニアや脊柱管狭窄症から靭帯骨化・側弯・脊椎脊髄腫瘍等の特殊な疾患まで対応し、顕微鏡や内視鏡、ナビゲーションを用いた安全な治療に努めています。股関節班は小切開人工股関節や関節温存手術等あらゆる治療を提供すると同時に医療関節材料開発講座と連携し人工関節の開発にも着手しています。膝班はスポーツ選手の関節鏡から高齢者の人工関節まで幅広く治療しており、肩班も一部の最先端の施設で行われている関節鏡を導入し好評を得ています。

昨年発足した骨バンクにより、多量の骨移植を要す手術にも常時可能となりました。整形外科・リウマチ外科では、今後も患者さんの生活の質の向上に貢献できるよう日々努力していきたいと考えております。

(初診受付)月・水(午前予約制 8:30~11:00)

TEL 099-275-5840



内視鏡視下椎間板ヘルニア摘出術のひとコマ。小さな傷で手術を行うため従来法にくらべ侵襲が小さいといわれています。



人工関節手術ではバイオクリーンルームを使用し、頭からかぶるガウン(通称宇宙服)をつけ、より清潔な環境で手術を行っています。

機能脳神経外科領域

脳神経外科では、てんかん、顔面痛(三叉神経痛)、顔面けいれん、パーキンソン病、振戦、疼痛、痙縮などの症状を持ちながらも、薬の効かない患者さんに対して、外科的な治療を行っています。

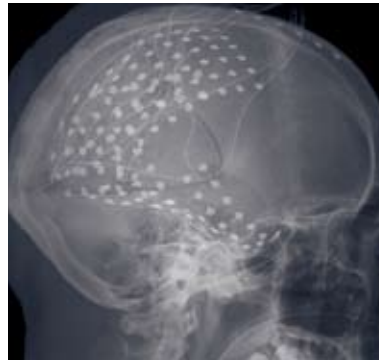
てんかんの外科治療の対象は、焦点という発作の源がはっきりしたてんかんであり、その中でも側頭葉てんかんが最も良い適応となります。また、焦点を特定できないてんかんでも、急に倒れこむような発作は手術により改善できます。

三叉神経痛や顔面けいれんの多くは、脳の神経と脳の血管とが接触することによって生じることがわかっています。この接触した部分を手術により解除することで、症状を改善することができます。

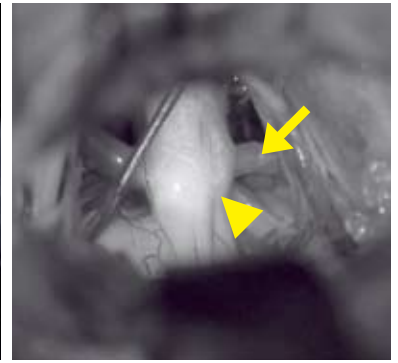
パーキンソン病の諸症状や難治性の痛みに対しては、頭蓋内や脊髄に埋め込んだ電極を通して刺激を行い、症状改善を図る治療法を行っています。

こうした治療について詳しくお知りになりたい方は、脳神経外科にご相談下さい。

〈初診受付〉火、木、金(8:30~11:00) TEL 099-275-5828



頭蓋内に記録電極を埋め込んで
行うてんかん焦点検索



三叉神経痛:血管(↑)が三叉神経(△)
を強く圧迫している

一人ひとりのむし歯予防のために ～だ液によるリスク検査～

「毎日歯磨きをしているのに、むし歯になった」、「歯磨きをしていないのにむし歯にならない」とよく聞きます。う蝕(むし歯)は、歯に付着したう蝕原因菌が食べ物の糖分を取り込み、作りだした酸によって歯が溶かされることで発生します。細菌、歯、糖質の3つの要因が重なるとう蝕が発生します。う蝕リスク検査では、この3つの要因を調べることによって、一人ひとりのう蝕のできやすさを調べます。検査によって、各人のう蝕のリスクを調べ、一人ひとりに対応した予防を行うことにより、う蝕の発生を未然に防ぐことができます。

実際の検査の内容は、だ液を用いて、分泌量、酸を中和する力(だ液緩衝能)、う蝕原因菌の数(ミュータンス菌・乳酸菌)を調べ、その他にお口の清掃状態(歯垢付着量)、食事、フッ化物応用の経験、過去の治療の状態などを調べます。検査は簡単で痛みはありません。

ご自分のお口の状態の気になる方、検査に興味のある方は口腔保健科(TEL 099-275-6650)までご連絡ください。

〈初診受付〉月～金(8:30~16:00)

TEL 099-275-6650



だ液検査キット



左:乳酸菌の検出

右:ミュータンス菌の検出

口腔保健科

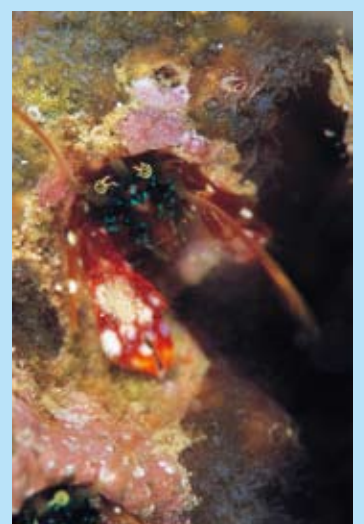
温暖化がもたらすもの

新年を迎える頃から、錦江湾の水温は、いよいよ最も低くなる時期を迎えます。厚いダイビングスーツを着ていても、寒さがじんじんと忍び込んできます。しかし、この寒さも昔に比べると、ずいぶんしのぎやすいものとなりました。錦江湾の水温が以前ほど下がらなくなってきたのです。私が錦江湾に潜り始めた20年前、冬の水温は14℃台まで下がったものでした。ところが今では、水温が最も下がる時期でも16℃ほどまでしか下がらないのです。地球温暖化が話題に上ることが多いこの頃、その影響は、目の前の錦江湾にも現れているのです。

冬の水温があまり下がらなくなったことで、錦江湾の生態系に変化が見られ始めました。その一つが、南方種の増加です。夏から秋、多くの南の海の生きものたちの卵や幼生が、黒潮に乗って運ばれてきます。彼らは、錦江湾の海底に降り立ち、成長します。しかし、冬の水温の低下に対応できず、多くは姿を消してしまいます。それで彼らの旅は、「無効分散」と呼ばれています。子孫を残すことなく、死んでいく悲しい存在だったのです。

ところが、1996年ごろを境に、それらの生きものたちが、続々と越冬するようになってきたのです。中には成長を続け、翌年に繁殖するものも現れました。無効分散が、有効分散になったのです。

冷え込んだ冬のある日、沖小島の南側で、ニシキカンザシヤドカリに出会いました。彼らも以前は錦江湾で見られなかった南方種です。立派に成体にまで成長した彼は、この冬を乗り切ることが出来るのでしょうか。



サンゴの中に埋もれたゴカイの巣から顔を出すニシキカンザシヤドカリ

TOPICS

イルミネーション点灯式とクリスマスコンサート

鹿児島大学病院では、今年度から初めての試みとして、医科診療棟1階玄関前にイルミネーションが設置され、去る12月8日、入院患者さんや病院長などの関係者が出席して、点灯式が行われました。

これは、財団法人親和会から、入院患者さんや病院を訪れる皆さんへ「温かい光の癒し」を提供したいと申し出があり、本院もこの趣旨に賛同し実現したものです。1月中旬までの約1カ月間ブルーの大きなツリーが入院患者さんや来訪者の方々の目を楽しませてくれました。

また、去る12月17日には、病院2階外来ホールで医学部と歯学部在学生ボランティアによるクリスマスコンサートが開かれ、入院患者さんやそのご家族、外来患者さんなど約100名が参加し、クリスマスソングの演奏を聞いたり、アニメソング「崖の上のポニョ」を一緒に歌ったり踊ったりして楽しいひとときを過ごし、最後に子供たちへささやかなプレゼントが渡されました。

この他にも本院では入院患者さんのお一日も早い回復を願い、各病棟で一般のボランティアの方や看護師によるクリスマス会などの行事が開催されました。



ツリーの全景



ボタンを押す患者さんと病院長



外来ホールでのクリスマスコンサート

広報誌編集部からのお知らせ

鹿児島大学病院の診療内容、病気について的一般知識など知りたいことがありましたら、お知らせください。

また、「桜ヶ丘だより」への皆様方からのご意見・ご感想をお待ちしております。

鹿児島大学病院広報誌 桜ヶ丘だより〈12号〉

2009(平成21)年1月発行

発行／鹿児島大学医学部・歯学部附属病院広報委員会広報誌編集部

〒890-8520 鹿児島市桜ヶ丘8丁目35番1号 TEL 099-275-6692

【鹿児島大学病院ホームページアドレス】

<http://com4.kufm.kagoshima-u.ac.jp/>